

調査研究に関する研究計画書

提出年月日		令和6年7月11日		部 名		微生物部	
調査研究課題		原因不明疾患の病原体検索(細菌)					
調査研究体制	主任研究者	津路優桒			研究区分 (小分類)	■ 県単研究 □ 公募研究 □ 共同研究 □ 受託研究 □ 基礎研究	
	その他の研究者	成田 翼、新田真依子、副田菜々美 引地恵一、福留智子、矢野浩司					
	調査研究期間	令和7年度 ～ 令和9年度 (3か年間)					
	調査研究費	予算項目	令和7年度	令和8年度	令和9年度		
		国 費	千円	千円	千円		
県 費		200千円	200千円	200千円			
そ の 他	千円	千円	千円				
合 計	200千円	200千円	200千円				
調査研究の目的		当所では、行政検査依頼で百日咳疑いの検体などが来るものの、陰性と判定される症例は多く存在する。一方、次世代シーケンサー(NGS)を用いたゲノム解析では、調製したRNAをライブラリー化することで、感度・特異度に加え、網羅性を兼ね備えた検査が可能である。また、混合感染が疑われる症例や病原体不明症例への対応としても有用である¹⁾。原因不明疾患の解明を行うことは県民の健康福祉にとって重要である。 本研究では、百日咳疑いで陰性となった検体を中心とした原因不明な細菌性の病原体について、NGSを用いて16S rDNA遺伝子配列をターゲットとしたメタゲノム解析を行い、病原体の特定と疾患の解明を目的とする。					
調査研究内容	研究の実施計画	・ 百日咳疑い検体の疫学調査とゲノム解析 ・ 宮崎県内の過去の原因不明疾患の調査					
	技術手法	遺伝子増幅法、メタゲノム解析、全ゲノム解析					
	年次計画	【令和7年度】 ・ 百日咳疑いで検査陰性となった検体のゲノム解析 【令和8年度】 ・ 過去の原因不明疾患のゲノム解析 【令和9年度】 ・ 疫学調査とデータ整理					
調査研究の効果等 行政効果・県民ニーズへの波及効果等		百日咳と疑われたが検査陰性となった症例や原因不明疾患の解析を行うことで、診断や感染症対策の一助として貢献できる。また、病原体と症状とのデータの蓄積により、県民の健康福祉の向上につながると考える。					
備 考		1) 黒田誠. 公衆衛生および感染症診断に貢献する微生物ゲノム研究の変貌. モダンメディア 2016 ; 62(7) : 241-249.					